令和８(2026)年９月４日

葛城市立新庄北小学校
トベラの木
学校だより　No.４
校長　中川　純一

８月６日　広島平和記念式典
平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるもの

https://www.home-tv.co.jp/news/content/?news_id=20260806364549
↑『平和への誓い』

８月６日、広島平和記念式典で広島市立高須小学校6年　柿崎由宇（かきざきゆう）さんと広島市立高南小学校6年　河野和希（こうのかずき）さんが述べた「平和への誓い」の全文です。

平和への誓い

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。
私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。
今もどこかで、当たり前の日常がうばわれています。
ぼろぼろになった制服。
黒く焦げたお弁当箱。
それは、当たり前の毎日を生きていた証（あかし）です。
昭和20年（1945年）8月6日、午前8時15分。
たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。
髪は焼けちぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷（やけど）した皮膚が垂れ下がった人々。
「痛いよ。苦しいよ。」
「助けて、お母さん。」
「死にたくない。」
「助けてあげられなくてごめん。」
死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。
私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、
当時の記憶を事実として受け止める使命があります。
目をそらさず、知ろうとすること。
悲しい現実でも向き合うこと。
そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。
私たちには、広島のこどもとして、行動する責任があります。
相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。
平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。
平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。
こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。
かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

令和8（2026）年8月6日
こども代表
広島市立高須小学校6年　柿崎由宇（かきざきゆう）
広島市立高南小学校6年　河野和希（こうのかずき）

「平和への誓い」を視聴して・・・

日差しはまだまだ夏の名残が感じられますが、校舎に子どもたちの弾んだ声と笑顔が戻ってまいりました。大きな事故もなく、一人ひとりがかけがえのない夏休みの思い出を胸に登校してくれたことを、心より嬉しく思っております。ご家庭での温かな見守りとご協力に、深く感謝申し上げます。

さて、この夏も８月６日・９日、そして１５日と、平和について思いを馳せる大切な日を迎えました。広島の平和記念式典で子ども代表が読み上げた「平和への誓い」には、かつて一瞬で奪われた「ぼろぼろの制服」や「黒く焦げたお弁当箱」の描写があります。それは決して特別なものではなく、今日、子どもたちが笑顔で身につけている服や、楽しみに持ってくるお弁当と同じ「当たり前の日常」が生きていた証です。

２学期のスタートにあたり、子どもたちには二つのことを伝えていきたいと思います。一つは「今ある当たり前の毎日を大切にすること」。友達と一緒に学び、笑い合える環境がどれほど尊いものであるかを感じてほしいということです。

もう一つは「違いを認め合い、歩み寄ること」です。これから運動会や学習発表会など、仲間と力を合わせる行事が多くあります。意見や考えが違ったときも、相手の気持ちを想像し、互いを尊重しながら一つのものを創り上げていく経験を重ねてほしいと願っています。

保護者の皆様。長い２学期の中では、子どもたちが心身の疲れを感じたり、壁にぶつかったりすることもあるかもしれません。平和や安心感は、家庭と学校がしっかりと手を取り合い、子どもたちの小さな変化に寄り添う中で育まれます。
「今日も学校で笑えたね」
と安心して帰れる場所を、今学期も共に創っていけたらと思います。

実り多き2学期となりますよう、引き続き本校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



▲図書室前にも平和学習関連本を置いています